



サルは、ずっと先には人間になるの

人間はサルの進化したものではない

人間にいちばんよく似ている動物は、チンパンジーなどのサルの仲間です。このサルの仲間の祖先は、わたしたち人間の祖先と、同じ原始的な動物だったのです。

しかし、それは、現在生きているサルが、人間の祖先だということではありません。人間とサルの祖先が、同じだったということだけなのです。

人間とサルは、同じ祖先から、何百万年という長い時間をかけて、人間は人間として変化し、サルはサルとして変化してきたのです。ですから、現在のサルが、ずっと先には人間になるということはないのです。

人間の祖先の命が、次々とバトンタッチされてきた

わたしたち人間が、今生きているのは、わたしたち人間の祖先の命が、親から子へ、子から孫、孫からひ孫というように、次々とバトンタッチされてきたからです。

このバトンタッチが、長い時間をかけて、何万回も何十万回もくり返されるうちに、人間など生き物は、体のつくり(構造)や形が変化していきます。このことを「進化」といいます。人間も、最初の原始的生き物から、非常に長い時間をかけて少しずつ変化し、進化しながら、今の人間になったのです。(監修・保志 宏)

